

地域と大学が共に考え・学び・成長する試み

富山ライトレールと富山大学の コラボレーション・ワークショップ

2

取り組みの背景

● 富山大学に対する低い認識

地域づくり・文化支援部門は発足当初、全学組織として大学が展開する地域づくりのミッション、戦略・戦術が定まっておらず、地域ネットワークも無い状態でした。そんな中、全県に視野を向け、呉西地域のみで特化した活動ではなく、いかに呉東地域で存在感を示せるかという状況で活動をスタートしました。県内15市町村への訪問調査の結果、富山大学の地域貢献に対する認識度は低く、大学連携による地域づくりへは高い興味を示すものの、その方法がわからないとの認識がほとんどでした。このような時に、富山ライトレールから相談が持ち込まれました。

準備活動と活動概況

● 富山ライトレールからの相談依頼

平成20年6月上旬、富山ライトレールの若手職員二人による突如の訪問を受けました。訪問意図は、富山大学と連携したコラボレート・ワークショップを開催し、富山ライトレールの「更なる利用促進」「企業価値向上」「沿線地域活性化」へ向けた解決課題の共有を図り、学生を巻き込んだイベントや商品開発企画を実現させたいという、熱意ある相談でした。

● 地域の熱意に応えるために

富山大学の地域貢献に対する低い認識を克服し、地域の高い関心に応えるためには、まちづくり関係者に潜在する大学の敷居の高さを解消し、地域と大学の双方が共に汗をかきながら、具体的な方法論を模索することが必要です。そこで、協働事業の企画、運営、事業効果の設定と実現方法を、大学の教職員と富山ライトレール職員が共に考え、準備活動に時間をかけました。



コラボレーション・ワークショップは、芸術文化学部より学生を募り、人文学部・大西宏治准教授、芸術文化学部・矢口忠憲准教授の



協力のもと、富山ライトレール職員も実際のワークショップ運営に携わりました。学生たちは富山ライトレールの現状と把握→将来イメージ→アクションプランの流れで検討しました。課題の検討成果は公開プレゼンテーションを経て、富山ライトレールが「エコポートラム事業」を実践しました。



協働事業の成果

大学連携による地域づくりが脚光を浴びる中、当初から方法論を理解し、想定どおりの効果創出は難しく、また学生の活動ゆえに協働事業の成果には限界があります。しかし、富山ライトレール職員の姿は、地域と大学が共に考え、学ぶことで地域づくりの担い手が成長することを実感させてくれました。富山ライトレールは、大学連携の有効性を体感し、経営方針に大学連携型地域活性化を組み込み、さらには地域再生塾「高度差4000」にて高度な協働型事業に取り組むなど、歩みを進めています。